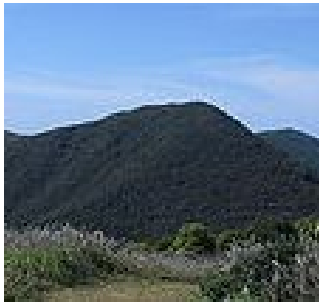


## 19. 庄原市最高峰

## 立烏帽子山 (1299.0m)

庄原市



比婆山連峰の最高峰。比婆山は、神話の山として崇められ、江戸、明治と多くの参拝者が登ったようである。県民の森や直下に駐車場ができ、現在は気軽に登られる山になっている。

庄原市 2017,4,1 推定

<面積> 1,246.49km<sup>2</sup>

<人口> 35,653人

<人口密度> 28.6人/km<sup>2</sup>

【山行日】10月8日(日) ☆天候：晴れ

【参加者】20名 CL皿家琢司 SL中島 恵

中島(靖) 宮木(澄) 宮木(一) 高橋 林 原田 曾田 坂井 越智 福田 三村 松本 滝合志 佐々木 舞田(真) 会友：舞田(健) 磯辺(体験)

【コースタイム】

県庁北(7:30) ⇒ 広島駅 ⇒ 中筋 ⇒ 広島IC ⇒ 庄原IC ⇒ 県民の森センター10:00 着 = 県民の森出発 10:12 ⇒ キャンプ場 10:26 ⇒ 御陵 12:00 - 昼食 - 12:50 出発 ⇒ 越原越 ⇒ 池の段 ⇒ 立烏帽子山 14:12 ⇒ 県民の森センター16:14 着

【報告】

昨年10月23日の悪天候撤退のリベンジとして、比婆山(御陵)～立烏帽子山縦走を行いました。昨年度も、24名の参加者がいて、足並みがそろわなかったのが今回は、出雲峠経由ではなく昨年度より短い御陵コースで登りました。10時12分に県民の森を出発し、2回の休憩をはさみ、12時丁度に、御陵に到着。

昼食後、池の段で360度の素晴らしい眺望を楽しんだ後、今回の目的地、立烏帽子山に向かいました。標識プレートはあるものの、展望はあまり良くなかったです。今回の山行は、天気にも恵まれ、紅葉しかけのブナ林の中を、快適に歩くことができました。

(記 皿家琢司)



### 池の段から立烏帽子山へ

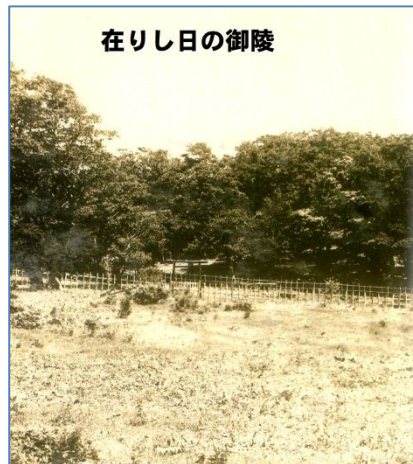


## 立烏帽子山は備後東口参詣路の神域エリアへの入り口だった・・・

西城町誌(平成17年発行)には、御陵及び熊野神社の例祭が御陵に隣接する広場で盛大に行われていた頃のこと紹介されている。「参拝者の行列四方に溢れ、同伴者が人波にもまれて離散しないように互いに呼び交わす声々が谷々に山彦して全山どよめき渡った」との口碑。御陵の広場に土俵が設けられ、相撲も奉納されたい。九州など遠来からの参拝者もあり、広場の北側には5軒の宿屋があったとか。

平成28年に庄原市教育委員会主導で作られた『日本誕生の女神伊邪那美が眠る比婆の山』は神話の舞台である比婆山を歴史や自然からだけでなく広範な面から探った本である。その本には出雲口、六ノ原口、備後西口、備後東口の参詣路のそれぞれが、岩や木や神社で御陵に至る神秘性を生み出していたことが紹介されている。一番重要な参詣路は、御陵の南正面、熊野神社に詣で、神の蔵、二ノ宮、三ノ宮を経て那智の滝、天狗の相撲場などを經由して竜王山に登り、その先の立烏帽子山山腹の備後烏帽子岩まで進み、御陵の神域に入り立烏帽子山を経てやっと御陵に到る備後東口だったようである。上記の本には、在りし日の御陵の写真が載っている。伊邪那美が眠るといふ円丘の周りには玉垣が張り巡らされ、今では考えられないような広場が写し出されている。本の発行に際して、小型飛行機による写真測量法で円丘の調査もされたようである。「基盤となる花崗岩類や流紋岩類の表層が何万年もの間に浸食され風化し、火山灰や黄砂などが堆積してできた山頂部の微地形だ。」と書かれている。しかし、「こうした地形に手が加えられた可能性がないかといえ、そうでもない。」と古墳以前の自然の小起伏を利用して作られた墳丘墓を例に確証は避けてある。御陵の美しい山容は数万年に渡る側面の地滑りでできたそう。特に六ノ原側は花崗岩の風化によるマサ土の砂鉄が含まれた崩壊だったそう。たたら場跡が六ノ原にある。御陵は貴重な鉄を生み出す山であったからこそ古代から神聖化されてきたのかも。今は、県民の森からのルートがほとんどで、立烏帽子山直下には駐車場もあり、簡単に登れる山になっている。備後東口の熊野神社側から一步一步進み、昔の人達に思いを馳せながら登ってみたい。

在りし日の御陵



### 庄原市最高峰立烏帽子山山頂で



#### 今までやまぼうしで登った庄原市の他の山

道後山 岩樋山 猫山 牛曳山  
伊良谷山 毛無山 烏帽子山  
比婆山 池の段 竜王山 吾妻山  
福田頭 猿政山 多飯が辻山  
葦嶽山 釜峰山